

# 有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成23年4月1日  
(第77期) 至 平成24年3月31日

新光電気工業株式会社

長野県長野市小島田町80番地

(E01957)

# 目次

ページ

表紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 沿革	3
3. 事業の内容	4
4. 関係会社の状況	6
5. 従業員の状況	8
第2 事業の状況	9
1. 業績等の概要	9
2. 生産、受注および販売の状況	10
3. 対処すべき課題	10
4. 事業等のリスク	11
5. 経営上の重要な契約等	12
6. 研究開発活動	12
7. 財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況の分析	13
第3 設備の状況	15
1. 設備投資等の概要	15
2. 主要な設備の状況	15
3. 設備の新設、除却等の計画	16
第4 提出会社の状況	17
1. 株式等の状況	17
(1) 株式の総数等	17
(2) 新株予約権等の状況	17
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	17
(4) ライツプランの内容	17
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	17
(6) 所有者別状況	17
(7) 大株主の状況	18
(8) 議決権の状況	19
(9) ストックオプション制度の内容	19
2. 自己株式の取得等の状況	20
3. 配当政策	21
4. 株価の推移	21
5. 役員の状況	22
6. コーポレート・ガバナンスの状況等	24
(1) コーポレート・ガバナンスの状況	24
(2) 監査報酬の内容等	28
第5 経理の状況	29
1. 連結財務諸表等	30
(1) 連結財務諸表	30
(2) その他	52
2. 財務諸表等	53
(1) 財務諸表	53
(2) 主な資産および負債の内容	65
(3) その他	67
第6 提出会社の株式事務の概要	68
第7 提出会社の参考情報	69
1. 提出会社の親会社等の情報	69
2. その他の参考情報	69
第二部 提出会社の保証会社等の情報	70

[監査報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年6月29日
【事業年度】	第77期（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）
【会社名】	新光電気工業株式会社
【英訳名】	SHINKO ELECTRIC INDUSTRIES CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 倉石 文夫
【本店の所在の場所】	長野県長野市小島田町80番地
【電話番号】	(026) 283-1000 (代表)
【事務連絡者氏名】	コーポレートコミュニケーション室長 清野 貴博
【最寄りの連絡場所】	長野県長野市小島田町80番地
【電話番号】	(026) 283-1000 (代表)
【事務連絡者氏名】	コーポレートコミュニケーション室長 清野 貴博
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第73期	第74期	第75期	第76期	第77期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
売上高 (百万円)	215,007	140,510	129,836	140,923	125,825
経常利益 (△は損失) (百万円)	21,050	△6,961	5,432	4,828	△1,758
当期純利益 (△は損失) (百万円)	11,336	△6,042	3,188	2,404	△2,242
包括利益 (百万円)	——	——	——	1,939	△2,448
純資産額 (百万円)	143,193	132,959	135,420	135,198	130,048
総資産額 (百万円)	198,475	156,266	173,690	171,921	166,686
1株当たり純資産額 (円)	1,059.98	984.22	1,002.45	1,000.80	962.68
1株当たり当期純利益 (△は損失) (円)	83.92	△44.73	23.60	17.80	△16.60
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	——	——	——	——	——
自己資本比率 (%)	72.1	85.1	78.0	78.6	78.0
自己資本利益率 (%)	8.15	△4.38	2.38	1.78	△1.69
株価収益率 (倍)	13.41	——	61.27	47.87	——
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	37,644	33,526	24,245	26,172	14,664
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△24,259	△20,348	△13,633	△20,636	△24,169
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△3,622	△3,611	△1,210	△2,226	△2,745
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	41,885	50,776	60,071	62,825	50,496
従業員数 (人)	4,941	4,848	5,035	5,028	4,995

(注) 1. 売上高には消費税および地方消費税 (以下「消費税等」という) は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第73期	第74期	第75期	第76期	第77期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
売上高 (百万円)	209,582	136,336	125,232	135,161	120,438
経常利益 (△は損失) (百万円)	20,357	△6,850	4,915	3,984	△1,895
当期純利益 (△は損失) (百万円)	11,933	△5,782	2,877	1,846	△2,165
資本金 (百万円)	24,223	24,223	24,223	24,223	24,223
発行済株式総数 (千株)	135,171	135,171	135,171	135,171	135,171
純資産額 (百万円)	141,674	132,894	134,669	134,306	129,416
総資産額 (百万円)	196,303	155,703	172,252	170,274	165,611
1株当たり純資産額 (円)	1,048.73	983.74	996.89	994.20	958.00
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	27.00 (9.00)	8.00 (4.00)	10.00 (4.00)	20.00 (10.00)	20.00 (10.00)
1株当たり当期純利益 (△は損失) (円)	88.33	△42.81	21.30	13.67	△16.03
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	——	——	——	——	——
自己資本比率 (%)	72.2	85.4	78.2	78.9	78.1
自己資本利益率 (%)	8.69	△4.21	2.15	1.37	△1.64
株価収益率 (倍)	12.74	——	67.89	62.32	——
配当性向 (%)	30.57	——	46.95	146.28	——
従業員数 (人)	4,068	4,052	4,211	4,200	4,210

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

## 2 【沿革】

新光電気工業株式会社（当社）の前身である合資会社長野家庭電器再生所が、昭和21年2月より家庭用電球のリサイクル事業を開始いたしました。その後、わが国工業の復興に伴い、ランプ、工業計器用部品の需要が増大しましたことから、事業拡大のため、昭和21年9月12日、新光電気工業株式会社に改組、改称いたしました。

昭和21年9月	新光電気工業株式会社設立（本店所在地 埼玉県浦和市（現 埼玉県さいたま市））
昭和24年4月	東京都大田区に本店を移転
昭和28年5月	ガラス端子の製造・販売開始
昭和30年10月	東京都板橋区に本店を移転
昭和32年6月	半導体分野への新規事業展開を図るため、富士通信機製造株式会社（現 富士通株式会社）の資本参加を得ました。
昭和32年12月	長野県長野市に栗田工場を開設
昭和34年7月	長野県長野市に本店を移転
昭和34年9月	東京都港区に東京事務所（現 東京営業所）を開設
昭和38年6月	長野県長野市に更北工場を開設
昭和41年10月	セラミックパッケージの製造・販売開始
昭和43年4月	リードフレームの製造・販売開始
昭和48年4月	長野県長野市に新光パーツ株式会社を設立
昭和50年2月	大阪府大阪市に大阪事務所（現 大阪営業所）を開設
昭和51年1月	精密接触部品の製造・販売開始
昭和51年4月	セラミックサーミアレスタの製造・販売開始
昭和52年3月	アメリカ合衆国カリフォルニア州にSHINKO ELECTRIC AMERICA, INC. を設立
昭和53年9月	新潟県新井市（現 新潟県妙高市）に新井工場を開設
昭和54年7月	I Cの組立・販売開始
昭和55年9月	長野県中野市に高丘工場を開設
昭和59年12月	東京証券取引所市場第二部に上場
昭和60年9月	鹿児島県始良郡加治木町（現 鹿児島県始良市）に南九州営業所を開設
昭和61年4月	宮城県仙台市に東北営業所を開設
昭和61年7月	シンガポール共和国にSHINKO ELECTRONICS (SINGAPORE) PTE. LTD. を設立
昭和62年12月	大韓民国全羅南道に韓国新光マイクロエレクトロニクス株式会社を設立
平成元年3月	愛知県安城市に東海営業所を開設
平成2年3月	福岡県福岡市に北九州営業所を開設
平成2年11月	マレーシアにSHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD. を設立
平成3年11月	長野県長野市に若穂開発センター（現 若穂工場）を開設
平成4年5月	大韓民国ソウル市に韓国新光商社株式会社を設立
平成4年10月	長野県長野市に新光テクノサーブ株式会社を設立
平成5年4月	熊本県熊本市に熊本営業所を開設
平成5年11月	台湾台北市に台新電子股份有限公司を設立
平成5年12月	新潟県北蒲原郡京ヶ瀬村（現 新潟県阿賀野市）に京ヶ瀬工場を開設
平成6年4月	北九州営業所を大分県大分市に移転し、大分営業所と改称
平成7年4月	PLP（プラスチック・ラミネート・パッケージ）の製造・販売開始
平成8年1月	フィリピン共和国にマニラ駐在員事務所を開設
平成8年9月	東京証券取引所市場第一部に上場
平成11年2月	ドイツ連邦共和国にデュッセルドルフ駐在員事務所を開設
平成12年9月	中華人民共和国上海市に上海駐在員事務所を開設
平成14年2月	長野県長野市に新光開発センターを開設
平成15年4月	中華人民共和国江蘇省に新光電気工業（無錫）有限公司を設立
平成16年7月	熊本営業所を福岡県福岡市に移転し、福岡営業所と改称 栗田工場を栗田総合センターと改称
平成16年9月	デュッセルドルフ駐在員事務所を移転し、フランクフルト駐在員事務所と改称
平成16年12月	東海営業所を愛知県名古屋市に移転
平成18年1月	東北営業所を仙台営業所と改称 東海営業所を名古屋営業所と改称
平成18年3月	南九州営業所を福岡営業所に統合
平成19年11月	中華人民共和国四川省に成都駐在員事務所を開設

### 3 【事業の内容】

当社および子会社10社（うち連結子会社9社）は、着実な進歩を続けるエレクトロニクス産業にあつて、半導体パッケージのリーディングカンパニーとして幅広い半導体実装技術に基づく製品の開発・製造・販売を主な事業内容としております。また、当社は富士通株式会社の子会社であります。

当社は、リードフレーム、PLP（プラスチック・ラミネート・パッケージ）、ガラス端子等の半導体パッケージの開発・製造および販売ならびにICの組立・販売を主要な事業としており、開発・設計から出荷に至る一貫生産体制によりさまざまな半導体パッケージ等を製造しております。

また、当社グループ（当社および連結子会社、以下同じ）は、「プラスチックパッケージ」および「メタルパッケージ」の2つを報告セグメントとしております。

<u>セグメントの名称</u>	<u>主要製品</u>
プラスチックパッケージ……	PLP（プラスチック・ラミネート・パッケージ）、ICの組立
メタルパッケージ……………	半導体用リードフレーム、半導体用ガラス端子、ヒートスプレッダー、セラミック静電チャック、精密接触部品

国内子会社の新光パーツ株式会社は、当社製品の外注加工および当社への部品の供給等を行っており、新光テクノサーブ株式会社は、当社へのサービスの提供および材料の供給等を行っております。

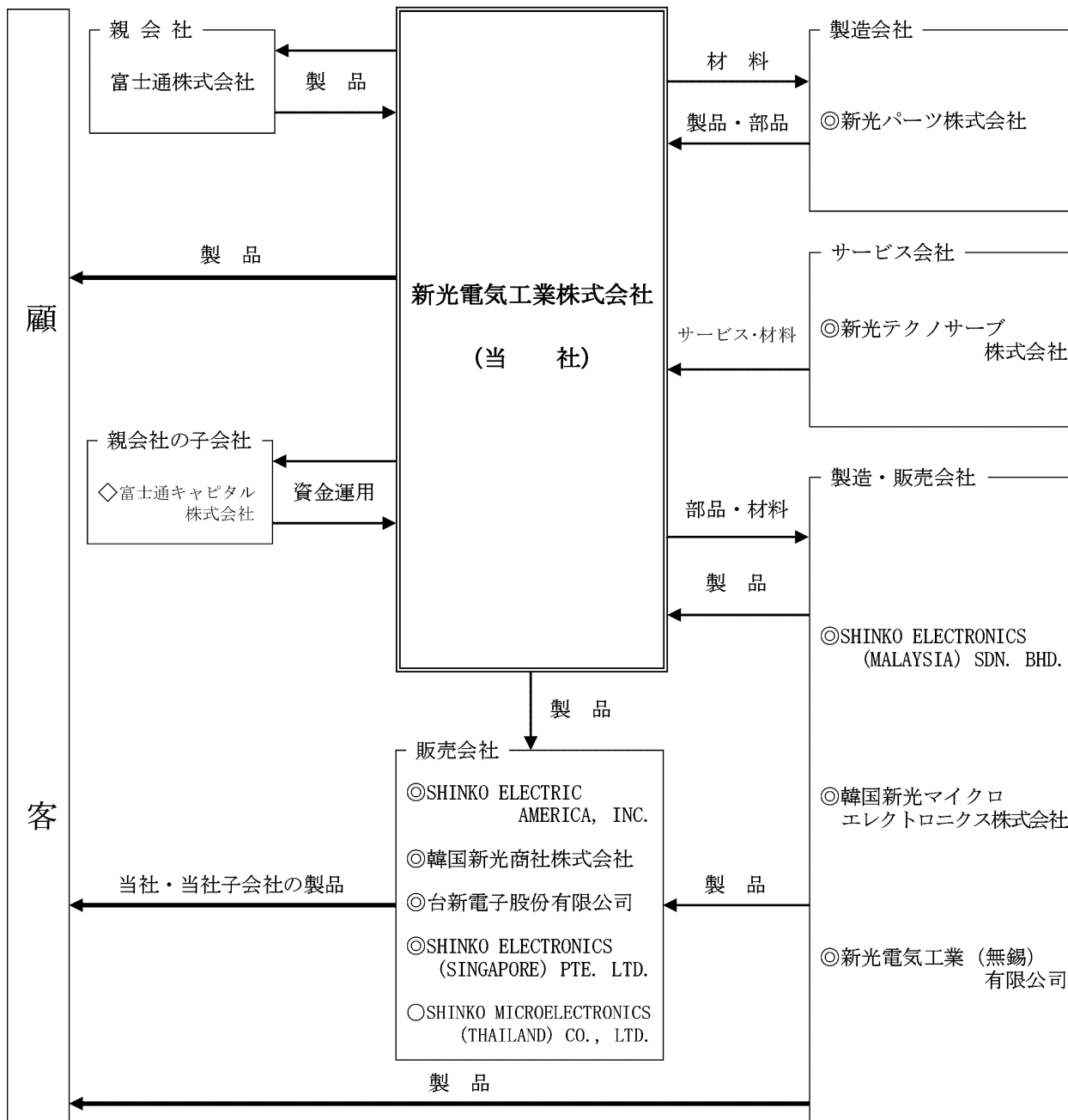
また、在外子会社のSHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD.および新光電気工業（無錫）有限公司は、リードフレームの製造・販売を行っており、当社は同2社に対して部品の供給を行っております。韓国新光マイクロエレクトロニクス株式会社は、ガラス端子等の製造・販売を行っており、当社は同社に対して製品の製造委託等を行っております。SHINKO ELECTRIC AMERICA, INC.、韓国新光商社株式会社、台新電子股份有限公司およびSHINKO ELECTRONICS (SINGAPORE) PTE. LTD. は、当社グループの製品の販売を行っております。

なお、上記の子会社は報告セグメントに含まれない事業セグメントとしております。

当社の親会社である富士通株式会社は、富士通グループ各社とともに、ICT分野において、各種サービスを提供するとともに、これらを支える最先端、高性能、かつ高品質のプロダクトおよび電子デバイスの開発、製造、販売から保守運用までを総合的に提供する、トータルソリューションビジネスを営んでおり、ソフトウェア・サービス、情報処理および通信分野の製品の開発、製造、販売およびサービスの提供を行っております。当社と富士通株式会社との間における主な取引は、同社への半導体パッケージの販売であります。また、当社は親会社の子会社である富士通キャピタル株式会社に資金運用の委託を行っております。

以上の内容を事業系統図に示すと次のとおりであります。

(事業系統図)



- (注) 1. ◎は連結子会社を示しております。  
 2. ○は持分法非適用の非連結子会社を示しております。  
 3. ◇は関連当事者（当社の関係会社を除く）を示しております。



#### 4 【関係会社の状況】

##### (1) 親会社

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の被所有割合 (%)	関係内容
富士通株式会社	神奈川県川崎市中原区	324,625	ソフトウェア・サービス、情報処理および通信分野の製品の開発、製造、販売およびサービスの提供	50.06 (0.03)	製品の売買、技術援助契約の締結、親会社からの役員の派遣1名（うち親会社役員0名）

- (注) 1. 議決権の被所有割合の（ ）内は、間接保有割合で内数であります。  
2. 富士通株式会社は、有価証券報告書を提出しております。

##### (2) 連結子会社

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
新光パーツ株式会社	長野県長野市	百万円 20	リードフレームの外注加工およびガラス端子部品の製造・販売	100.0	当社への部品の供給、当社製品の 外注加工、役員の派遣4名 (うち当社役員0名)
新光テクノサーブ株式会社	長野県長野市	百万円 40	各種業務の請負および薬液の製造・販売	100.0	当社へのサービスの提供および 材料の供給、役員の派遣4名 (うち当社役員0名)
SHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD.	マレーシア	千マレーシア リンギット 68,000	リードフレームの製造・販売	100.0	当社からの部品の供給、借入等 に対する債務保証、役員の派遣 4名（うち当社役員0名）
韓国新光マイクロエレクトロニクス株式会社	大韓民国	百万ウォン 11,900	ガラス端子、サージアレスタの製造・販売	100.0	当社製品の製造委託、役員の派遣 3名（うち当社役員0名）
SHINKO ELECTRIC AMERICA, INC.	アメリカ合衆国	千米ドル 7,500	半導体パッケージの販売	100.0	当社および当社子会社の製品の 販売、役員の派遣2名（うち当 社役員1名）
韓国新光商社株式会社	大韓民国	百万ウォン 200	半導体パッケージの販売	100.0	当社および当社子会社の製品の 販売、役員の派遣2名（うち当 社役員0名）

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
台新電子股份有限公司	台湾	千台湾元 8,000	半導体パッケージの販売	100.0	当社および当社子会社の製品の販売、役員の派遣4名（うち当社役員1名）
SHINKO ELECTRONICS (SINGAPORE) PTE. LTD.	シンガポール共和国	千シンガポールドル 100	半導体パッケージの販売	100.0	当社および当社子会社の製品の販売、役員の派遣2名（うち当社役員1名）
新光電気工業（無錫）有限公司	中華人民共和国	千米ドル 4,500	リードフレームの製造・販売	100.0	当社からの部品の供給、役員の派遣4名（うち当社役員1名）

（注） 1. SHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD. は、特定子会社に該当いたします。

2. 子会社の議決権に対する所有割合はすべて直接所有のものであり、間接所有のものはありません。

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数（人）
プラスチックパッケージ	2,199
メタルパッケージ	1,144
報告セグメント計	3,343
その他	785
全社（共通）	867
合計	4,995

- (注) 1. 従業員数は、就業人員数（当社グループ外部からグループへの出向者を含み、当社グループからグループ外部への出向者を含まない）により記載しております。
2. 全社（共通）として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門等に所属しているものであります。

### (2) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
4,210	42.0	19.9	6,209,927

セグメントの名称	従業員数（人）
プラスチックパッケージ	2,199
メタルパッケージ	1,144
報告セグメント計	3,343
全社（共通）	867
合計	4,210

- (注) 1. 従業員数は、就業人員数（当社への出向者を含み、当社からの出向者を含まない）により記載しております。
2. 平均年間給与（税込）は、賞与および基準外賃金を含んでおります。
3. 全社（共通）として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門等に所属しているものであります。

### (3) 労働組合の状況

- a. 名称 : 新光電気労働組合
- b. 組合員数 : 3,983人
- c. 所属上部団体名 : 全富士通労働組合連合会
- d. 労使関係 : 健全な労使関係を維持しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度の経済環境は、日本におきましては、東日本大震災後の混乱に加え、極端な円高・ドル安傾向の長期化等により、生産・輸出・消費が大きく落ち込むなど、総じて厳しい状況で推移しました。海外では、欧州における金融不安、米国経済の回復鈍化、タイにおける洪水被害、さらには中東の政治不安等に起因する原油価格の高騰などを背景に景気の減速懸念が高まる状況となりました。

半導体業界につきましては、スマートフォンやタブレット端末等が需要を牽引したものの、世界経済が減速感を強める中、タイの洪水被害の影響による一部製品の供給不足懸念なども背景として、パソコンや薄型テレビ等、エレクトロニクス機器向けの需要が弱含むなど、厳しい市場環境のうちに推移しました。

このような環境下にあつて、当社グループ（当社および連結子会社、以下同じ）におきましては、主力のフラップチップタイプパッケージの生産能力増強・次世代製品対応のための投資をはじめ、今後、成長が見込まれる製品分野において重点的に経営資源の投下をはかるとともに、積極的な拡販活動によって受注確保に努め、海外向けを中心に受注は第4四半期にかけて回復傾向を示したものの、総じてパソコンやデジタル家電等の需要伸び悩みに伴う在庫調整の影響を受けたことなどにより、当連結会計年度の連結売上高は1,258億25百万円（対前期比10.7%減）となりました。収益面につきましては、厳しい事業環境のもと、全社において生産革新活動を基軸とする合理化・効率化の一層の強化ならびに経費削減等の緊急対策を実行したものの、市場価格の低下に加え、円高・ドル安の長期化による影響を大きく受けたことなどから、遺憾ながら、連結経常損失は17億58百万円、連結当期純損失は22億42百万円となりました。

セグメント別の状況は次のとおりであります。

#### ア. プラスチックパッケージ

フラップチップタイプパッケージについては、期後半にかけて需要が持ち直したものの、期前半の在庫調整の影響を大きく受け、売上が減少いたしました。アセンブリ事業においては、カメラモジュール組立の売上が増加した一方、その他携帯電話向け等の需要は低調に推移し、また、プラスチックBGA基板についても厳しい受注環境が継続しました。これらの結果、当セグメントの売上高は810億56百万円（対前期比12.7%減）、経常損失は23億45百万円となりました。

なお、生産実績は816億14百万円（対前期比24.3%減）、受注高は794億83百万円（同18.1%減）、受注残高は73億82百万円（同18.2%減）であります。

#### イ. メタルパッケージ

MPU向けのヒートスプレッダーは、デスクトップ型パソコンやサーバー向けの需要が底堅く推移し売上が増加いたしました。一方、デジタル家電向けの需要低迷などを背景として、リードフレームおよび光素子用ガラス端子については厳しい受注環境が続き、また、セラミック静電チャックについても半導体製造装置向けの需要が伸び悩み、いずれも前期比減収となりました。これらの結果、当セグメントの売上高は379億39百万円（対前期比7.3%減）、経常利益は4億47百万円（同52.3%減）となりました。

なお、生産実績は398億82百万円（対前期比13.3%減）、受注高は387億88百万円（同6.6%減）、受注残高は23億14百万円（同19.0%減）であります。

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。（以下「第2 事業の状況」において同じ）

#### (2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における「現金及び現金同等物」（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ123億29百万円減少し、504億96百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、前連結会計年度に比べ、115億7百万円（44.0%）減少し146億64百万円となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、前連結会計年度に比べ、35億32百万円（17.1%）増加し241億69百万円となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、前連結会計年度に比べ、5億19百万円（23.3%）増加し27億45百万円となりました。

## 2【生産、受注および販売の状況】

「生産、受注および販売の状況」につきましては、「第1 企業の概況 3 事業の内容」に記載したセグメントにより表示しております。なお、生産および受注の状況については、「1 業績等の概要」に含めて記載しております。

### (1) 生産実績

「1 業績等の概要」に含めて記載しております。

### (2) 受注状況

「1 業績等の概要」に含めて記載しております。

### (3) 販売実績

セグメントの名称		当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	前年同期比 (%)
プラスチックパッケージ	(百万円)	81,056	87.3
メタルパッケージ	(百万円)	37,939	92.7
報告セグメント計	(百万円)	118,996	88.9
その他	(百万円)	6,829	95.8
合計	(百万円)	125,825	89.3

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績および当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)
INTEL CORPORATION	60,846	43.2	56,438	44.9

## 3【対処すべき課題】

今後の経済環境は、日本におきましては、震災からの復興需要を含めた底堅い内需等を背景として緩やかな景気回復が見込まれるものの、輸出の伸び悩みや為替相場における円高基調の継続が想定されるなど、予断を許さない状況が続くものと思われま。海外におきましては、世界経済を牽引する米国において雇用回復および消費拡大等が期待される一方で、欧州での金融危機の深刻化や中国における経済成長の減速、加えて原油・原材料価格の高騰なども懸念され、先行き不透明感の強い、厳しい環境が継続するものと見込まれます。

半導体業界におきましては、引き続きスマートフォン等の多機能携帯情報端末の市場拡大や、新興国におけるパソコン・デジタル家電等への需要拡大が期待されるものの、世界経済の停滞に伴う需要の伸び悩みが懸念されるほか、高品質かつ低コスト化への要求がさらに強まり、企業間競争の一層の激化が見込まれるなど、今後も厳しい市場環境が続くものと想定されます。

このような状況に対処するため、当社グループといたしましては、マーケティング機能ならびに商品開発力の一層の充実に努め、当社が有する最先端の半導体実装技術をもとに、お客様のニーズに即した新商品のタイムリーな市場投入・事業化をはかることによって、経営基盤の強化に注力してまいります。また、熾烈な競争が繰り広げられる半導体市場にあって、「限りなき発展」を果たすべく、全社におきまして生産革新活動による生産性向上の取り組みを一段と進化・発展させ、卓越した「ものづくり」の製造現場を構築することにより、市場・環境の変化に即応できる強固な企業体質の確立に努め、収益構造の再構築をはかってまいり所存であります。

#### 4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理、財務の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

##### (1) 財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況の異常な変動

- ①当社グループは、ワールドワイドに事業を展開しており、製品を販売している国または地域の経済状況の影響を受けるとともに、半導体市況等の影響を大きく受ける状況にあります。半導体業界は、急速な技術革新に伴い、高集積化、高速化等の進展が著しく、これに伴って製品のライフサイクルが短くなる傾向にあります。また、売上および収益とも市況環境の変化に伴う価格変動の影響を受ける可能性があります。
- ②競合他社が、低廉な人件費、安価で高品質な部品・原材料の調達、あるいは画期的な製造技術の開発等によって、当社グループと同種の製品をより低価格で製造し供給することになった場合、売上の減少、製品価格の下落等によって、当社グループの業績を低下させる可能性が生じます。
- ③為替相場の変動は、当社グループの経営成績および財政状態、また、競争力にも影響し、当社グループの業績に影響を与えます。為替変動は、主に外貨建てで当社が販売する製品の価格設定に影響します。当社グループは、日本国内を主に製造活動を行っており、輸出による売上がかなりの割合を占めているため、当社グループの業績は、円が他の通貨、とりわけ米ドルに対して円高になると悪影響を受ける可能性があります。
- ④当社グループ製品の欠陥に起因する品質・信頼性に係る重大な問題が起こった場合、損害賠償責任の負担や売上の減少等により、当社グループの事業、財政状態および経営成績に悪影響を与える可能性があります。

##### (2) 特定の取引先・製品・技術等への依存

- ①当社グループ製品の販売先において、一部取引先への納入割合が高くなっており、当該取引先が、事業上または技術上の重大な問題など、何らかの理由により当社グループとの取引額を削減しなければならなくなった場合、当社グループの事業、財政状態および経営成績に悪影響を与える可能性があります。
- ②当社グループは、多数の外部の取引先から原材料および部品を購入していますが、製品の製造において使用するいくつかの原材料等については、一部の取引先に依存しています。効率的に、かつ安いコストで供給を受け続けられるかどうかは、当社グループがコントロールできないものも含めて、多くの要因に影響を受けます。当社グループの購入する原材料等には、貴金属・地金相場等の変動や、取引先からの供給遅延・中断や、原材料等の需給状況・市況環境などによっては、生産に必要な原材料等の調達不足が生じたり、製品コストの上昇要因となる場合があります。これらの原因等により、当社グループの事業、財政状態および経営成績に悪影響を与える可能性があります。

##### (3) 特有の法的規制・取引慣行、重要な訴訟事件等の発生

- ①当社グループは、ワールドワイドに事業を展開しており、各国における事業・投資の許可、国家安全保障または輸出制限、関税をはじめとするその他の輸出入規制等の政府規制の適用を受けます。また、通商、独占禁止、特許、租税、為替管理規制、環境・リサイクル関連の法的規制等の適用も受けております。これらの規制を遵守できなかった場合、当社グループの活動が制限される可能性があり、その結果、当社グループの事業成長および業績が悪影響を受ける可能性があります。
- ②当社グループが独自に開発した技術について、特許権その他の知的財産権を取得することは競争上の優位性をもたらす一方で、その優位性の維持は保証されるわけではなく、技術の変化によっては、その価値を失う可能性があります。また、このような知的財産権等が広範囲にわたって保護できない場合や、広範囲にわたり当社グループの知的財産権等が違法に侵害されることによって訴訟等が生じた場合、多額の費用および経営資源が費やされる可能性があります。

##### (4) その他

- ①地震等の災害や紛争等によって、原材料や部品の購入、生産、製品の販売、物流やサービスの提供などに遅延や停止が生じる可能性があります。これらの遅延や停止が起り、それが長期間にわたる場合、当社グループの事業、財政状態および経営成績に悪影響を与える可能性があります。
- ②当社グループが事業活動を行う中で保有する機密情報や個人情報等の様々な情報が、不正な行為等により外部に流失した場合、信用失墜や損害賠償責任の発生等により、当社グループの事業、財政状態および経営成績に悪影響を与える可能性があります。

## 5 【経営上の重要な契約等】

### 技術援助契約

当社グループが締結している主な技術援助契約は次のとおりであります。

### 技術導入

契約会社名	相手方の名称	契約品目	内容	契約期間
新光電気工業株式会社（当社）	富士通株式会社	I C の組立	「I C 組立品」の製造に関する技術の導入についての契約	昭和54年7月20日から 昭和55年7月19日まで 以後1年ごとの自動更新

## 6 【研究開発活動】

当社グループは、半導体パッケージのリーディングカンパニーとして、多様化、高度化するニーズに対応しうる半導体パッケージ、半導体実装技術の研究開発に取り組んでおります。

当連結会計年度における研究開発費は45億44百万円で、主な研究開発活動としては、フリップチップタイプのMPU向けパッケージなど高密度多層配線プリント基板技術の高度化および次世代製品の開発等に注力したほか、エレクトロニクス機器の小型化、高機能化に対応する製品の事業化に向けた半導体実装技術の開発などを推進いたしました。

当社グループの研究開発は、先端技術の基礎研究活動ならびに新製品の事業化に向けた研究開発活動等を開発統括部に集約し、この開発統括部が中心となって研究開発活動を展開しております。

なお、研究開発活動によって開発される技術の多くはさまざまな製品に利用されることなどから、活動の状況および当該費用を報告セグメントにより区分することは困難であり、報告セグメントによって示すことは行っておりません。

## 7【財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針および見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたりまして、連結会計年度末における資産・負債の金額および連結会計期間における収益・費用の金額に影響を与える重要な会計方針および各種引当金等の見積り方法（計上基準）につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおりであります。

なお、各種引当金等の見積り数値につきましては、見積り特有の不確実性があるため実際の結果とは異なる場合があります。

### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度における売上高は、海外向けを中心として受注が第4四半期にかけて回復傾向を示したものの、総じてパソコンやデジタル家電等の需要伸び悩みに伴う在庫調整の影響を受けたことなどにより、前期比10.7%減の1,258億25百万円となりました。

このうち、海外売上高は、フリップチップタイプパッケージが、期前半の在庫調整の影響を大きく受けたことなどにより、前期比11.9%減の950億37百万円となりました。また、国内売上高につきましても、デジタル家電向けの需要低迷等を背景として厳しい受注環境が続き、前期比6.8%減の307億88百万円となりました。

収益面では、厳しい事業環境のもと、全社において生産革新活動を基軸とする合理化・効率化の一層の強化ならびに経費削減等の緊急対策を実行したものの、市場価格の低下に加え、円高・ドル安の長期化による影響を大きく受けたことなどから、営業損失は36億78百万円となりました。

営業外損益に関しては、営業外収入として為替差益13億91百万円等を計上し、経常損失は17億58百万円となりました。

また、特別損失として、固定資産除却損4億67百万円を計上し、当期純損失は22億42百万円となりました。

### (3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

半導体業界は、スマートフォンをはじめとする多機能携帯情報端末市場の拡大や、新興国を中心とするパソコン・デジタル家電等の需要拡大、さらにはカーエレクトロニクス分野のさらなる発展なども背景として、中長期的な成長の持続が期待されるものの、高品質かつ低コスト化への要求がさらに強まり、企業間競争の一層の激化が見込まれることに加え、需給バランスの変動も予想されるなど、今後も楽観できない市場環境が続くものと思われまます。また、高集積・高機能化の進展に伴う製品サイクルの短期化等による売上への影響に加え、原材料価格の高騰局面においては、売上原価率の上昇が懸念されます。

また、欧州における金融不安や米国経済の動向等によっては、為替が不安定に推移することも予想されます。

この他、当社グループの経営成績に重要な影響が生じる可能性につきましては、「4 事業等のリスク」に記載しております。

### (4) 戦略的現状と見通し

半導体産業は、高集積化・高速化等の技術革新および絶えず変化する市場ニーズに対し、低コストかつ柔軟に対応し得る開発・生産体制を構築することを要するなど、生き残りをかけた世界規模での競争が、さらに一段と激化することが予想されます。その一方で、市場の先行きは、スマートフォンをはじめとする多機能携帯情報端末市場の拡大や、新興国を中心とするパソコン・デジタル家電等の需要拡大、さらにはカーエレクトロニクス分野のさらなる発展なども背景として、中長期的な成長の持続が見込まれます。

その中で、半導体パッケージ市場は、半導体技術の進歩に伴うパッケージの多様化および実装技術の高度化により、ICチップをパッケージに実装する技術（一次実装技術）と、パッケージングされたICをプリント配線基板に実装する技術（二次実装技術）が融合される傾向にあります。

今後、当社グループは、従来より培ってまいりました多様な半導体実装の要素技術を融合し、競争力をさらに高めた新製品、新技術の開発、市場投入を強力に推進してまいります。

また、市場価格の継続的な低下等が見込まれるなか、生産革新活動を一層加速させ、合理化、生産性の向上を進め、環境変化に耐えうる強固な企業基盤の確立をはかってまいります。



(5) 財政状態および資金の流動性についての分析

当連結会計年度末の財政状態につきましては、以下のとおりであります。

総資産は1,666億86百万円で、前連結会計年度末に比べ52億35百万円の減少となりました。このうち流動資産は、設備投資等に伴う手許流動性預金の減少などにより996億45百万円（前連結会計年度末比72億17百万円減）となりました。固定資産は、設備投資に伴う有形固定資産の増加などにより670億41百万円（前連結会計年度末比19億82百万円増）となりました。

負債の部は、前連結会計年度末に比べ84百万円減の366億37百万円となりました。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べ51億50百万円減の1,300億48百万円となりました。

この結果、1株当たり純資産額は962.68円（前連結会計年度末は1,000.80円）となり、自己資本比率は78.0%（前連結会計年度末は78.6%）となりました。

当社グループの資金状況は、次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローで得られた資金は、146億64百万円（対前期比44.0%減）となりました。主な要因は、減価償却費等により資金が増加した一方、売上債権の増加および税金等調整前当期純損失等により資金が減少したことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローでは、241億69百万円（対前期比17.1%増）の資金を使用しました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出であります。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、27億45百万円（対前期比23.3%増）の資金を使用しました。主に、配当金の支払に使用したものです。

これらの活動の結果に為替換算差額を加味した当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末の628億25百万円から123億29百万円減少し、504億96百万円となりました。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループは、キャッシュ・フローを重視し、常に利益を創出できる強固な経営基盤の確立に努め、かつコーポレート・ガバナンスの充実をはかるとともに、以下の項目に重点をおいた経営戦略を展開してまいります。

①徹底した現場主義に基づく「ものづくり」の革新

お客様の望まれる品質・納期に対応し、適正な価格でご提供するという製造業の原点に立ち、徹底した現場主義をもって製品の開発、設計から生産、出荷にいたる「ものづくり」のすべての段階において革新し続けることによって、競争力の向上に努め、収益を確保してまいります。

②変化に即応できる企業体質の構築

市場環境の変化が激しく、熾烈な競争が繰り返される半導体産業にあつて、変化に即応できる企業体質の構築こそが企業存続・発展の条件ととらえ、全部門において一層の合理化・生産性の向上に努めるとともに、会社創業以来培ってまいりました技術力をもとに、お客様のニーズに速やかに対応し、明確に差別化された製品の開発・量産化を進め、企業体質の強化をはかってまいります。

③環境経営の推進

市場において必要とされる企業であることはもとより、株主の皆様のご期待に応え、お取引先や従業員、地域社会など企業を取り巻く方々との関係を重視し、また、地球環境と企業活動の調和を基本理念として、社会において必要とされる企業であり続けるべく事業を展開してまいります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループ（当社および連結子会社、以下同じ）は、当連結会計年度において総額147億71百万円の設備投資を実施いたしました。これは、プラスチックパッケージ部門において新製品の量産体制整備のための設備投資を行ったほか、全部門にわたって合理化・省力化を目的とした投資を行ったものです。

なお、当連結会計年度中に生産能力に重要な影響を及ぼす設備の売却、撤去等はありません。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループの当連結会計年度末現在における主要な設備は、次のとおりであります。

##### (1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額				従業員数 (人)	
			建物及び 構築物 (百万円)	機械装置 及び運搬 具 (百万円)	工具、器 具及び備 品 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)		合計 (百万円)
本社更北工場 (長野県長野市)	プラスチックパ ッケージ メタルパッケージ	PLP製造設備 ガラス端子製 造設備	2,839	5,175	363	615 84,580.89 (39,113.77)	8,994	1,200
若穂工場 (長野県長野市)	プラスチックパ ッケージ	PLP製造設備	7,080	6,701	60	349 57,195.86 (39,931.81)	14,191	555
高丘工場 (長野県中野市)	プラスチックパ ッケージ メタルパッケージ	PLP製造設備 リードフレー ム製造設備 ガラス端子製 造設備	4,480	3,208	614	2,138 121,222.94 (25,516.33)	10,441	1,013
新井工場 (新潟県妙高市)	プラスチックパ ッケージ メタルパッケージ	PLP製造設備 IC組立設備 リードフレー ム製造設備	3,159	2,128	232	1,149 122,143.37 (76.72)	6,670	924
新光開発センター (長野県長野市)	全社（共通）	応用研究設備	839	2,738	77	— —	3,656	247

(注) 土地の面積の（ ）内は、他よりの賃借分で、内数であります。

##### (2) 在外子会社

会社名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額				従業員数 (人)	
				建物及び 構築物 (百万円)	機械装置 及び運搬 具 (百万円)	工具、器 具及び備 品 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)		合計 (百万円)
SHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD.	マレーシア	その他	リードフレー ム製造設備	294	350	253	203 44,199.00	1,102	449

### 3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。設備計画は原則的に連結会社各社が個別に策定しておりますが、計画策定にあたっては当社を中心に調整を図っております。

なお、当連結会計年度末現在における設備投資計画の状況は次のとおりであります。

内容	目的	予算金額 (百万円)	既支払額 (百万円)	着工年月	完成予定年月
(生産設備)					
プラスチックパッケージ	増産および合理化	24,800	—	平成24年4月	平成26年3月
メタルパッケージ	〃	5,700	—	平成24年4月	平成26年3月
その他	〃	2,300	—	平成24年4月	平成26年3月
全社(共通)	新製品開発他	6,100	—	平成24年4月	平成26年3月
(その他)					
当社 高丘工場建屋	新製品および増産	20,000	4,282	平成23年9月	平成25年12月
合計	———	58,900	4,282	———	———

- (注) 1. 上記設備計画における今後の所要資金54,618百万円は、自己資金により充当し、不足分については銀行借入により充当する予定であります。
2. 本計画達成後には、現有生産能力が約30%増加する見込みであります。
3. 高丘工場建屋20,000百万円は、主にフリップチップタイプパッケージの生産能力増強、新製品対応を図るための設備計画であります。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	540,000,000
計	540,000,000

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成24年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成24年6月29日)	上場金融商品取引所名 または登録認可金融商 品取引業協会名	内容
普通株式	135,171,942	135,171,942	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	135,171,942	135,171,942	——	——

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成18年4月1日 (注)	90,114	135,171	—	24,223	—	6,055

(注) 平成18年3月8日開催の取締役会の決議により、平成18年3月31日最終の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主の所有株式数を、平成18年4月1日付をもって1株につき3株の割合で分割いたしました。これにより発行済株式の総数は、90,114,628株増加し、135,171,942株となりました。

#### (6)【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株 式の状況 (株)
	政府および 地方公共団 体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	45	31	104	182	9	14,975	15,346	——
所有株式数 (単元)	—	231,895	7,232	694,404	264,869	152	153,076	1,351,628	9,142
所有株式数の 割合(%)	—	17.16	0.53	51.38	19.60	0.01	11.32	100.00	——

(注) 1. 自己株式81,639株は、「個人その他」に816単元および「単元未満株式の状況」に39株を含めて記載しております。  
2. 「その他の法人」には、証券保管振替機構名義の株式が2単元含まれております。

## (7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名または名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
富士通株式会社	神奈川県川崎市中原区上小田中四丁目1番1号	67,587	50.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	6,838	5.06
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	4,915	3.64
ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・ジャスディック・トリーティ・アカウント (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行)	AVENUE DES ARTS 35 KUNSTLAAN, BRUSSELS, BELGIUM (東京都中央区月島四丁目16番13号)	4,389	3.25
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	200 WEST STREET NEW YORK, NY, USA (東京都港区六本木六丁目10番1号)	2,564	1.90
ステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニー 505103 (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行)	P. O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS U. S. A. (東京都中央区月島四丁目16番13号)	2,556	1.89
株式会社八十二銀行	長野県長野市中御所字岡田178番地8	1,836	1.36
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	1,807	1.34
ニッポンベスト (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	P. O. BOX 2992 RIYADH KINGDOM OF SAUDI ARABIA (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	1,350	1.00
朝日生命保険相互会社	東京都千代田区大手町二丁目6番1号	1,239	0.92
計	——	95,084	70.34

(注) 金融商品取引法の「株券等の大量保有の状況に関する開示」制度に基づき、みずほ証券株式会社から、平成24年3月23日付で提出された変更報告書の写しにより、平成24年3月15日現在で4,214千株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合 3.12%)を下記のとおり保有している旨の報告を受けておりますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名または名称	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
みずほ証券株式会社	217	0.16
みずほ信託銀行株式会社	3,601	2.66
みずほ投信投資顧問株式会社	395	0.29
計	4,214	3.12

(8)【議決権の状況】

①【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	——	——	——
議決権制限株式(自己株式等)	——	——	——
議決権制限株式(その他)	——	——	——
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 81,600	——	——
完全議決権株式(その他)	普通株式 135,081,200	1,350,812	——
単元未満株式	普通株式 9,142	——	——
発行済株式総数	135,171,942	——	——
総株主の議決権	——	1,350,812	——

(注)「完全議決権株式(その他)」には、証券保管振替機構名義の株式が200株含まれております。また、「議決権の数」には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数が2個含まれております。

②【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名または名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
新光電気工業株式会社	長野県長野市小島田町80番地	81,600	—	81,600	0.06
計	——	81,600	—	81,600	0.06

(9)【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3) 【株主総会決議または取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	—	—
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

### (4) 【取得自己株式の処理状況および保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	81,639	—	81,639	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取および売渡による株式は含まれておりません。

### 3 【配当政策】

配当政策につきましては、株主の皆様への利益還元を充実させていくことを経営の最重要施策の一つと考えており、半導体業界の急速な技術革新に対応した設備投資や研究開発投資を通じた強固な企業基盤の確立と将来の事業展開に備えるため、内部留保の充実も考慮し、財政状態、利益水準および配当性向などを総合的に勘案した利益配当を行うことを基本方針としております。

また、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、中間配当については取締役会、期末配当については株主総会であり、会社法第454条第5項の規定に基づき取締役会の決議をもって中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき、1株当たり年間20円（中間配当金10円、期末配当金10円）の配当を実施いたしました。

当事業年度の内部留保資金につきましては、引き続き市場の変化に対応した新技術・新製品の開発に対する資金需要に備えるほか、将来の事業展開に効率的に投資してまいり所存であります。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成23年10月26日 取締役会決議	1,350	10
平成24年6月28日 定時株主総会決議	1,350	10

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第73期	第74期	第75期	第76期	第77期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	3,030	1,638	1,924	1,691	887
最低(円)	1,067	420	853	625	492

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所（市場第一部）におけるものであります。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	11月	12月	平成24年1月	2月	3月
最高(円)	648	576	600	629	772	850
最低(円)	509	498	508	526	598	697

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所（市場第一部）におけるものであります。



5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長		黒岩 護	昭和17年2月12日生	昭和36年4月 富士通信機製造株式会社（現 富士通株式会社）入社 昭和56年10月 当社入社 昭和63年12月 事務統轄部長代理 平成元年6月 取締役 平成4年6月 常務取締役 平成7年6月 専務取締役 平成16年6月 代表取締役社長 平成19年4月 代表取締役社長 執行役員社長 平成23年6月 代表取締役会長（現在に至る）	(注) 2	11
取締役 副会長		藤本 明	昭和22年8月12日生	昭和46年4月 富士通株式会社入社 平成10年6月 当社入社 事務統轄部長 兼 環境管理統 轄部長 平成11年6月 取締役 平成16年6月 常務取締役 平成18年6月 専務取締役 平成19年4月 取締役 専務執行役員 平成22年4月 取締役 副社長執行役員 平成23年6月 常勤監査役 平成24年6月 取締役副会長（現在に至る）	(注) 2	8
代表取締役 社長	執行役員社長	倉石 文夫	昭和29年9月16日生	昭和54年4月 当社入社 平成9年6月 P L P 事業部長 平成10年6月 取締役 平成13年9月 常務取締役 平成14年4月 専務取締役 平成19年4月 取締役 専務執行役員 平成23年6月 代表取締役社長（現在に至る） 執行役員社長（現在に至る）	(注) 2	11
取締役	常務執行役員 営業部門担当、 営業統括部長	浅野 義博	昭和31年7月21日生	平成2年9月 当社入社 平成16年7月 営業統括部長代理 平成18年6月 取締役 第一営業統括部長 平成19年4月 取締役 上席執行役員 平成19年6月 上席執行役員 平成20年12月 営業統括部長（現在に至る） 平成22年6月 常務執行役員 平成23年6月 取締役 常務執行役員 （現在に至る）	(注) 2	6
取締役	常務執行役員 開発・営業部門担 当、 開発統括部長 兼 営業統括部副統括 部長	清水 満晴	昭和34年11月1日生	昭和57年4月 当社入社 平成18年6月 開発統括部長（現在に至る） 平成19年4月 執行役員 平成22年6月 上席執行役員 平成23年6月 取締役 常務執行役員 （現在に至る） 平成24年6月 営業統括部副統括部長 （現在に至る）	(注) 2	2
取締役	上席執行役員 P L P 事業部長	依田 稔久	昭和33年1月3日生	昭和57年4月 当社入社 平成18年11月 第一 P L P 事業部長 平成19年4月 執行役員 平成21年4月 P L P 事業部長（現在に至る） 平成23年6月 取締役 上席執行役員 （現在に至る）	(注) 2	3
取締役	上席執行役員 経理本部長 兼 経営戦略室長 兼 環境管理統括部長	長谷部 浩	昭和35年2月25日生	昭和58年11月 当社入社 平成18年6月 経理本部長 兼 J - S O X 推 進室長 平成19年4月 執行役員 平成20年12月 経理本部長（現在に至る） 平成23年6月 取締役 上席執行役員 （現在に至る） 環境管理統括部長 （現在に至る） 平成24年1月 経営戦略室長（現在に至る）	(注) 2	26

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		小川 喜彦	昭和30年1月19日生	昭和53年4月 当社入社 平成12年6月 設備開発統括部長 平成13年6月 取締役 平成19年4月 取締役 常務執行役員 平成19年6月 常務執行役員 平成24年6月 常勤監査役 (現在に至る)	(注) 3	7
常勤監査役		酒井 雄一	昭和26年1月28日生	昭和48年4月 富士通株式会社入社 平成15年9月 同社ものづくり推進本部長 平成18年6月 同社常務理事 平成22年4月 同社執行役員 平成22年6月 同社執行役員 当社監査役 平成24年4月 富士通株式会社特命顧問 平成24年6月 当社常勤監査役 (現在に至る)	(注) 4	-
監査役		北澤 光二	昭和23年8月25日生	昭和49年12月 昭和監査法人 (現 新日本有限責任監査法人) 入所 昭和53年9月 公認会計士登録 昭和54年1月 税理士登録 昭和55年12月 昭和監査法人退職 昭和56年1月 北澤公認会計士事務所 (現在に至る) 平成23年6月 当社監査役 (現在に至る)	(注) 5	-
計						77

(注) 1. 監査役酒井 雄一、北澤 光二は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

2. 平成23年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から2年間

3. 平成24年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

4. 平成22年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

5. 平成23年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

6. 当社は、取締役会の意思決定の迅速化と監督機能の強化ならびに権限・責任の明確化による機動的な業務執行体制を構築することを目的として、執行役員制度を導入しております。取締役を兼務しない執行役員は以下のとおりであります。

常務執行役員 今井 邦彦

上席執行役員 井口 和治

上席執行役員 三井 精造

上席執行役員 荻原 俊彦

上席執行役員 清野 貴博

上席執行役員 菊地 貴人

執行役員 小林 純一

執行役員 南沢 克夫

執行役員 大日方政史

執行役員 小平 正司

執行役員 反町 東夫

執行役員 高柳 秀則

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### ①企業統治の体制の概要

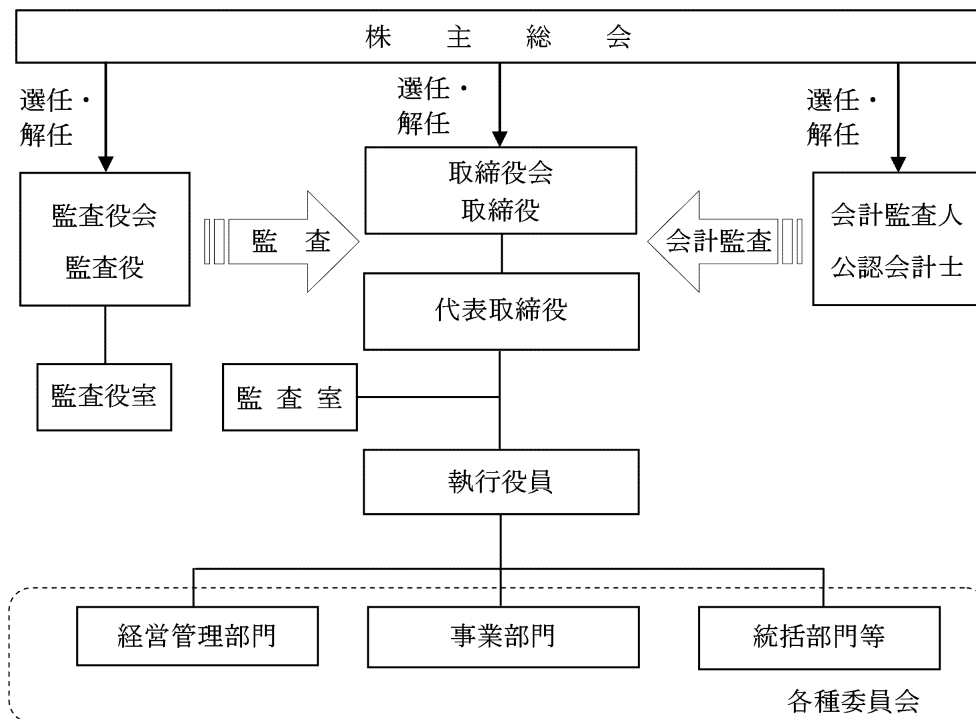
環境変化の激しい半導体市場にあって、当社は、経営の透明性を確保し、また変化に迅速に対応して意思決定が適正かつ速やかになされるべく、必要な施策を講じるとともに、コンプライアンスを最重要視し、企業価値の向上、発展を目指してまいります。

当社は、監査役設置会社であり、取締役会による職務執行の監督ならびに監査役による監査を基軸とする監査・監督体制のもと、取締役会の意思決定の迅速化と監督機能の強化ならびに権限・責任の明確化による機動的な業務執行体制を構築することを目的として執行役員制度を導入し、コーポレート・ガバナンスの一層の強化ならびに企業経営の効率化をはかっております。

取締役会は、基本方針、法令・定款で定められた事項ならびに経営に関する重要事項の決定および執行状況を監督する機関として、定時取締役会を原則として毎月1回開催し、必要に応じて、随時、臨時取締役会を開催しております。また、取締役および執行役員をもって構成する執行役員会議を毎月開催し、各部門およびグループ会社の状況報告をはじめとして、経営全般に関する審議、報告を行っております。この他、損益、営業、生産、開発等の状況につきまして、担当取締役および執行役員等をもって構成する会議を定期的かつ必要に応じて随時開催することなどにより、速やかな状況把握のもと対応等の検討を行い、経営判断に反映させるなど、環境変化の激しい半導体市場に柔軟かつ迅速に対応できる体制を整えております。

監査役は、取締役会、執行役員会議および主要な会議への出席ならびに取締役等からの事業報告などを通じ、取締役の職務執行の監査を実施しております。

会計監査人には新日本有限責任監査法人を選任しており、また、内部監査部門として監査室を設置しております。



#### ②企業統治の体制を採用する理由

環境変化の激しい半導体市場にあって、迅速かつ的確な意思決定を行うため、当社の取締役会は、業界動向および当社の事業内容、製品技術等に精通した取締役をもって構成しております。また、取締役会の意思決定の迅速化と監督機能の強化ならびに権限・責任の明確化による機動的な業務執行体制の構築を目的として、執行役員制度を導入し、コーポレート・ガバナンス体制の強化ならびに企業経営の効率化をはかっております。社外監査役2名を含む監査役は、取締役会その他の重要な会議への出席、取締役等からの事業報告などを通じ、取締役の職務執行の監査を実施しており、また、内部監査部門である監査室が業務監査を実施するなど、現状の体制において監視機能は有効に機能していると考えております。以上が当該企業統治の体制を採用する理由であります。

### ③内部統制システムおよびリスク管理体制の整備の状況

当社は、内部監査部門として監査室（室員3名）を設置し、法令および諸規程に基づき監査を実施するとともに、経営管理部門による各種統制等の部門間の牽制が効果的に運用されるべく内部統制システムの充実をはかっております。さらに、会社を取り巻くリスクを適切に管理・統制すべく経営管理部門においてリスク管理を統括するとともに、コンプライアンス、品質、環境などに関わるリスクについては経営管理部門ならびに統括部門において、事業部門と連携してリスクの予防、回避、管理の各対策を講じております。また、各部門における所管事項を補完すべく、安全・衛生、環境対策、輸出管理等について全社横断的な委員会組織を設け、関連規程・マニュアル等を全社的に整備するなど、当社を取り巻くさまざまな危険要因に対応すべく必要な体制を整えております。

また、企業の社会的責任を認識し、より一層信頼される企業を目指すべく、企業倫理に基づく行動のガイドラインを定め、全社員に対し、当社企業理念に基づく事業活動の推進や業務遂行における法令遵守ならびに高い倫理観に基づく行動の徹底をはかっております。加えて、今後とも経営の透明性を高めるため、迅速かつ正確な情報開示に努めてまいります。

会計監査人には新日本有限責任監査法人を選任し、会計監査および四半期レビューならびに内部統制監査を受けております。なお、業務を執行した公認会計士の氏名等および監査業務に係る補助者の構成は次のとおりであります。

#### ア. 業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人および継続監査年数

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名	継続監査年数
指定有限責任社員 業務執行社員	小林 宏	新日本有限責任監査法人	—
	伊藤 正広		—
	齋田 毅		—

#### イ. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士7名 その他10名

### ④責任限定契約の内容の概要

当社と社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令の定める最低責任限度額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

### ⑤内部監査および監査役監査の状況

当社の内部監査部門である監査室（室員3名）は、各業務が適切かつ効率的に実施されることを確認するため、「内部監査規程」に基づき、内部監査を実施しております。この監査室は監査役に対し、内部監査の計画およびその結果を報告するなど、随時、監査役と情報交換や意見交換を行っております。また、監査役より要請がある場合、監査室は監査役の監査が実効的に行われるよう連携・協力しております。

監査役は常勤監査役2名および非常勤監査役1名の3名（うち社外監査役2名）体制で、取締役会、執行役員会議および重要な会議への出席ならびに取締役等からの事業報告などを通じ、取締役の職務執行の監査を実施しており、監査役の職務を補助する組織として監査役室（室員3名）を設置しております。また、会計監査人から年間の監査計画の提出や監査実施結果の報告を受けるほか、会計監査人と定期的な情報交換や意見交換を行うなど、緊密な連携をはかっております。

なお、監査役の北澤光二は、公認会計士および税理士の資格を有し、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。

### ⑥社外取締役および社外監査役

当社の社外監査役は2名であります。社外監査役の酒井雄一は、平成24年4月1日付で当社の親会社である富士通株式会社の執行役員を退任し、現在は当社の常勤監査役であります。同氏は製造会社事業運営をはじめとする幅広い見識と豊富な経験を有しており、その知見を監査に反映してもらうため選任しております。社外監査役の北澤光二は、公認会計士および税理士としての専門的な知識と豊富な経験を有しており、その知見を監査に反映してもらうため選任しております。また、同氏は、当社との間に一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立性を有しており、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。なお、北澤公認会計士事務所と当社との間には特別の利害関係はありません。

当社は、社外役員を選任するための独立性に関する基準を定めておりませんが、選任にあたっては東京証券取引所が定める独立役員の独立性に関する判断基準を参考にしております。

社外監査役は、監査室および会計監査人から監査計画ならびにその結果の報告を受けるとともに、必要に応じて、監査室および会計監査人と情報交換や意見交換を行うなど、緊密な連携をはかっております。

当社は社外取締役を選任しておりません。環境変化の激しい半導体市場にあつて、迅速かつ的確な意思決定を行うため、当社の取締役会は、業界動向および当社の事業内容、製品技術等に精通した取締役をもって構成しております。また、取締役会の意思決定の迅速化と監督機能の強化ならびに権限・責任の明確化による機動的な業務執行体制の構築を目的として、執行役員制度を導入し、コーポレート・ガバナンス体制の強化ならびに企業経営の効率化をはかっております。また、社外監査役2名を含む監査役は、取締役会その他重要な会議への出席、取締役等からの事業報告などを通じ、取締役の職務執行の監査を実施しており、また、内部監査部門である監査室が業務監査を実施するなど、現状の体制において監視機能は有効に機能していると考えております。なお、今後、適任者がいた場合の社外取締役の選任も含め、コーポレート・ガバナンス体制のより一層の強化を検討してまいります。

#### ⑦役員報酬等

ア. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役	207	207	—	—	—	8
監査役 (社外監査役を除く)	37	37	—	—	—	2
社外役員	1	1	—	—	—	1

イ. 役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針の内容および決定方法

役員報酬の総額は、株主総会における承認決議の範囲内で各役員の報酬を決定しております。

各役員個々の報酬額については、内規に基づき、当期の会社業績、各人の役位、職務内容、業績および責任等を総合的・客観的に考慮し、担当部門、担当役員が支給基準案を作成し、取締役については取締役会において、監査役については監査役の協議により審議・決定しております。

⑧株式の保有状況

ア. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数および貸借対照表計上額の合計額  
16銘柄 138百万円

イ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額および保有目的  
前事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
FORMFACTOR, INC.	133,334	112	取引関係維持のため
株式会社アドバンテスト	11,824	17	取引関係維持のため
株式会社日立製作所	33,000	14	取引関係維持のため
F D K株式会社	18,000	2	取引関係維持のため
株式会社みずほフィナンシャルグループ	13,580	1	取引関係維持のため
株式会社三菱UFJフィナンシャルグループ	4,240	1	取引関係維持のため
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	528	1	取引関係維持のため
株式会社八十二銀行	1,807	0	取引関係維持のため
浜松ホトニクス株式会社	100	0	取引関係維持のため
富士電機ホールディングス株式会社	1,000	0	取引関係維持のため
アピックヤマダ株式会社	1,000	0	取引関係維持のため
株式会社三井ハイテック	104	0	取引関係維持のため

(注) 富士電機ホールディングス株式会社は、平成23年4月1日付で富士電機株式会社に商号変更しております。

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
FORMFACTOR, INC.	133,334	60	取引関係維持のため
株式会社日立製作所	33,000	17	取引関係維持のため
株式会社アドバンテスト	11,824	15	取引関係維持のため
株式会社みずほフィナンシャルグループ	13,580	1	取引関係維持のため
株式会社三菱UFJフィナンシャルグループ	4,240	1	取引関係維持のため
F D K株式会社	18,000	1	取引関係維持のため
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	528	1	取引関係維持のため
株式会社八十二銀行	1,807	0	取引関係維持のため
浜松ホトニクス株式会社	100	0	取引関係維持のため
富士電機株式会社	1,000	0	取引関係維持のため
アピックヤマダ株式会社	1,000	0	取引関係維持のため
株式会社三井ハイテック	104	0	取引関係維持のため

ウ. 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度および当事業年度における貸借対照表計上額の合計額ならびに当事業年度における受取配当金、売却損益および評価損益の合計額  
該当事項はありません。

⑨取締役の定員および選任の決議要件

当社の取締役は8名以内とする旨を定款に定めております。また、株主総会における取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨および累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

⑩株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会を円滑に行うことを目的とするものであります。

⑪株主総会決議事項のうち取締役会で決議することができる事項

ア. 自己の株式の取得に関する要件

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得できる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の実施を可能とすることを目的とするものであります。

イ. 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

ウ. 取締役および監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）および監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。これは、取締役および監査役がその期待される役割を十分に発揮できることを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	48	—	49	—
連結子会社	—	—	—	—
計	48	—	49	—

② 【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1. 連結財務諸表および財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の連結財務諸表および事業年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。



1 【連結財務諸表等】  
 (1) 【連結財務諸表】  
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	23,625	15,835
受取手形及び売掛金	31,185	37,926
有価証券	—	426
商品及び製品	2,722	1,377
仕掛品	3,721	3,666
原材料及び貯蔵品	1,232	1,222
預け金	40,000	35,000
繰延税金資産	2,881	2,862
その他	※3 1,498	※3 1,355
貸倒引当金	△4	△25
流動資産合計	106,863	99,645
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	※2. ※4 19,993	※2. ※4 20,134
機械装置及び運搬具（純額）	※2 25,459	※2 20,710
工具、器具及び備品（純額）	※2 2,201	※2 1,828
土地	6,470	6,493
建設仮勘定	4,865	10,857
有形固定資産合計	58,990	60,023
無形固定資産	983	896
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 195	※1 143
繰延税金資産	2,360	2,644
その他	3,320	3,934
貸倒引当金	△792	△602
投資その他の資産合計	5,084	6,120
固定資産合計	65,058	67,041
資産合計	171,921	166,686

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	18,563	20,320
短期借入金	600	600
未払金	6,006	2,770
未払法人税等	188	139
未払費用	6,253	6,414
その他	418	1,706
流動負債合計	32,029	31,952
固定負債		
退職給付引当金	4,050	4,112
その他	642	572
固定負債合計	4,692	4,685
負債合計	36,722	36,637
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	24,223	24,223
資本剰余金	24,129	24,129
利益剰余金	89,791	84,847
自己株式	△92	△92
株主資本合計	138,052	133,107
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	55	26
繰延ヘッジ損益	—	6
為替換算調整勘定	△2,908	△3,091
その他の包括利益累計額合計	△2,853	△3,058
純資産合計	135,198	130,048
負債純資産合計	171,921	166,686

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	140,923	125,825
売上原価	124,614	117,966
売上総利益	16,309	7,859
販売費及び一般管理費	※1. ※2 11,660	※1. ※2 11,538
営業利益又は営業損失 (△)	4,649	△3,678
営業外収益		
受取利息	187	167
受取技術料	316	47
為替差益	—	1,391
雑収入	434	341
営業外収益合計	938	1,947
営業外費用		
支払利息	16	7
為替差損	669	—
雑支出	73	20
営業外費用合計	759	27
経常利益又は経常損失 (△)	4,828	△1,758
特別損失		
固定資産除却損	※3 593	※3 467
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	133	—
特別損失合計	727	467
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失 (△)	4,100	△2,225
法人税、住民税及び事業税	326	256
法人税等調整額	1,369	△239
法人税等合計	1,696	17
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失 (△)	2,404	△2,242
当期純利益又は当期純損失 (△)	2,404	△2,242

## 【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失(△)	2,404	△2,242
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△67	△29
繰延ヘッジ損益	18	6
為替換算調整勘定	△415	△182
その他の包括利益合計	△464	※ △205
包括利益	1,939	△2,448
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,939	△2,448
少数株主に係る包括利益	—	—

## ③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
<b>株主資本</b>		
資本金		
当期首残高	24,223	24,223
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	24,223	24,223
資本剰余金		
当期首残高	24,129	24,129
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	24,129	24,129
利益剰余金		
当期首残高	89,548	89,791
当期変動額		
剰余金の配当	△2,161	△2,701
当期純利益又は当期純損失(△)	2,404	△2,242
当期変動額合計	243	△4,944
当期末残高	89,791	84,847
自己株式		
当期首残高	△92	△92
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	△92	△92
株主資本合計		
当期首残高	137,809	138,052
当期変動額		
剰余金の配当	△2,161	△2,701
当期純利益又は当期純損失(△)	2,404	△2,242
当期変動額合計	243	△4,944
当期末残高	138,052	133,107

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	123	55
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△67	△29
当期変動額合計	△67	△29
当期末残高	55	26
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	△18	—
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	18	6
当期変動額合計	18	6
当期末残高	—	6
為替換算調整勘定		
当期首残高	△2,492	△2,908
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△415	△182
当期変動額合計	△415	△182
当期末残高	△2,908	△3,091
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△2,388	△2,853
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△464	△205
当期変動額合計	△464	△205
当期末残高	△2,853	△3,058
純資産合計		
当期首残高	135,420	135,198
当期変動額		
剰余金の配当	△2,161	△2,701
当期純利益又は当期純損失（△）	2,404	△2,242
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△464	△205
当期変動額合計	△221	△5,150
当期末残高	135,198	130,048

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	4,100	△2,225
減価償却費	20,759	19,660
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△1,008	△821
受取利息及び受取配当金	△190	△170
支払利息	16	7
為替差損益(△は益)	221	1
有形固定資産除却損	353	249
売上債権の増減額(△は増加)	5,370	△6,778
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,485	1,391
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,467	1,812
未払費用の増減額(△は減少)	△348	168
その他	51	1,471
小計	26,374	14,766
利息及び配当金の受取額	191	170
利息の支払額	△17	△7
法人税等の支払額	△375	△265
営業活動によるキャッシュ・フロー	26,172	14,664
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△1,179	△1,734
定期預金の払戻による収入	1,272	1,740
有形固定資産の取得による支出	△20,072	△23,986
無形固定資産の取得による支出	△393	△176
投資及び長期貸付金の増減額(△は増加)	△334	△96
その他	71	83
投資活動によるキャッシュ・フロー	△20,636	△24,169
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△2,161	△2,701
その他	△65	△44
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,226	△2,745
現金及び現金同等物に係る換算差額	△554	△78
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,754	△12,329
現金及び現金同等物の期首残高	60,071	62,825
現金及び現金同等物の期末残高	* 62,825	* 50,496

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 9社

連結子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載のとおりです。

(2) 非連結子会社の名称等

非連結子会社 1社

SHINKO MICROELECTRONICS (THAILAND) CO., LTD.

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、小規模であり、総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）および利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を与えていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用していない非連結子会社は、連結純損益および利益剰余金等に与える影響が軽微であり重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

なお、当社は、関連会社を有しておりません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日

12月末 1社

3月末 8社

12月末日決算会社は、12月末決算により連結しております。

連結決算日の不一致による差異に重要なものがある場合には連結上調整を行うこととしております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準および評価方法

①有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

②デリバティブ

時価法

③たな卸資産

総平均法および先入先出法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）であります。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

主に定率法によっております。ただし、当社および国内連結子会社については、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く。）について、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 10～38年

機械装置及び運搬具 5～12年

②無形固定資産

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産について、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。



②退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。

なお、過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による按分額を費用処理しております。

また、数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

(4) 重要な外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社の資産、負債、収益および費用は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

①ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

②ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	ヘッジ対象
為替予約取引	外貨建予定取引
通貨オプション取引	外貨建予定取引

③ヘッジ方針

当社グループは、将来の為替の相場変動に伴うリスクの軽減を図る目的で、デリバティブ取引に関する管理規定を定めており、その規定に基づきヘッジの有効性を判定し、デリバティブ取引を行っております。

④ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計を比較勘案し、有効性を評価しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金および現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

【追加情報】

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更および過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）および「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

（連結貸借対照表関係）

※1. 非連結子会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券（株式）	4百万円	4百万円

※2. 有形固定資産の減価償却累計額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
	221,722百万円	232,128百万円

※3. 消費税等

未収消費税等は流動資産の「その他」に含めて表示しております。

※ 4. 国庫補助金等の受入れによる圧縮記帳累計額は次のとおりであります。

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
358百万円	358百万円

(連結損益計算書関係)

※ 1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
荷造費・運賃・保管料	1,256百万円	1,086百万円
従業員給料手当	2,376百万円	2,405百万円
研究開発費	4,081百万円	4,544百万円

※ 2. 研究開発費の総額は次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
4,081百万円	4,544百万円

※ 3. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物及び構築物	126百万円	69百万円
機械装置及び運搬具	174百万円	133百万円
工具、器具及び備品	22百万円	19百万円
その他	270百万円	243百万円

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

※ その他の包括利益に係る組替調整額および税効果額

その他有価証券評価差額金

当期発生額	△52百万円
税効果額	23百万円
その他有価証券評価差額金	<u>△29百万円</u>

繰延ヘッジ損益

当期発生額	14百万円
組替調整額	<u>△4百万円</u>
税効果調整前	9百万円
税効果額	<u>△3百万円</u>
繰延ヘッジ損益	<u>6百万円</u>

為替換算調整勘定

当期発生額	△182百万円
その他の包括利益合計	<u>△205百万円</u>

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類および総数ならびに自己株式の種類および株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	135,171,942	—	—	135,171,942
合計	135,171,942	—	—	135,171,942
自己株式				
普通株式	81,639	—	—	81,639
合計	81,639	—	—	81,639

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	810	6	平成22年3月31日	平成22年6月30日
平成22年10月27日 取締役会	普通株式	1,350	10	平成22年9月30日	平成22年12月10日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,350	利益剰余金	10	平成23年3月31日	平成23年6月30日

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

1. 発行済株式の種類および総数ならびに自己株式の種類および株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	135,171,942	—	—	135,171,942
合計	135,171,942	—	—	135,171,942
自己株式				
普通株式	81,639	—	—	81,639
合計	81,639	—	—	81,639

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	1,350	10	平成23年3月31日	平成23年6月30日
平成23年10月26日 取締役会	普通株式	1,350	10	平成23年9月30日	平成23年12月9日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,350	利益剰余金	10	平成24年3月31日	平成24年6月29日

## (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
現金及び預金勘定	23,625百万円	15,835百万円
有価証券勘定	－百万円	426百万円
預け金勘定	40,000百万円	35,000百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△800百万円	△765百万円
現金及び現金同等物	62,825百万円	50,496百万円

## (金融商品関係)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い預金等に限定し、資金調達については主に銀行借入による方針であります。また、デリバティブは、将来の為替の変動によるリスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。

## (2) 金融商品の内容およびそのリスクならびにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されておりますが、当社グループでは、債権管理の基準等に従って、取引先ごとの期日管理および残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を定期的に把握することにより、リスクの軽減を図っております。

なお、外貨建ての債権については、為替の変動リスクを回避する目的でデリバティブ取引（為替予約取引および通貨オプション取引）を利用しております。

デリバティブ取引については、取引権限および取引限度額等を定めた当社グループの管理規定に基づき行っており、デリバティブの利用においては、信用リスクを考慮して取引先を選定しております。また、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象等については、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4. 会計処理基準に関する事項 (5) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

有価証券および投資有価証券は、譲渡性預金および株式であります。譲渡性預金は、取引先の信用リスクに晒されておりますが、安全性の高い短期間のものにより運用しております。また、株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価および出資先の財務状況等を把握するなどのリスク管理を行っております。

営業債務である買掛金および未払金等は、全てが1年以内の支払期日であります。

短期借入金は、主に営業取引に係る資金調達であります。

なお、買掛金および短期借入金等は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、資金収支計画を作成するなどの方法により、リスクを回避しております。

## (3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2. 参照）。

前連結会計年度（平成23年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	23,625	23,625	—
(2) 受取手形及び売掛金 貸倒引当金（※1）	31,185 △4		
	31,181	31,181	—
(3) 投資有価証券 その他有価証券	153	153	—
(4) 預け金	40,000	40,000	—
資産計	94,961	94,961	—
(5) 買掛金	18,563	18,563	—
(6) 短期借入金	600	600	—
(7) 未払金	6,006	6,006	—
(8) 未払費用	6,253	6,253	—
負債計	31,423	31,423	—
デリバティブ取引（※2） ヘッジ会計が適用されていないもの	10	10	—
デリバティブ取引計	10	10	—

（※1）受取手形及び売掛金に対応する貸倒引当金を控除しております。

（※2）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で示しております。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	15,835	15,835	—
(2) 受取手形及び売掛金 貸倒引当金（※1）	37,926 △25		
	37,900	37,900	—
(3) 有価証券および投資有価証券 その他有価証券	527	527	—
(4) 預け金	35,000	35,000	—
資産計	89,264	89,264	—
(5) 買掛金	20,320	20,320	—
(6) 短期借入金	600	600	—
(7) 未払金	2,770	2,770	—
(8) 未払費用	6,414	6,414	—
負債計	30,105	30,105	—
デリバティブ取引（※2） ヘッジ会計が適用されていないもの	(1,033)	(1,033)	—
ヘッジ会計が適用されているもの	9	9	—
デリバティブ取引計	(1,023)	(1,023)	—

（※1）受取手形及び売掛金に対応する貸倒引当金を控除しております。

（※2）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券およびデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(4) 預け金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券および投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、譲渡性預金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負 債

(5) 買掛金、(6) 短期借入金、(7) 未払金、(8) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
非上場株式	41	41

これらについては、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 有価証券および投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権および満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度 (平成23年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	23,625	—	—	—
受取手形及び売掛金 (※)	31,181	—	—	—
預け金	40,000	—	—	—
合計	94,807	—	—	—

(※) 受取手形及び売掛金のうち、貸倒引当金を設定し、償還予定額が見込めない4百万円は含めておりません。

当連結会計年度 (平成24年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	15,835	—	—	—
受取手形及び売掛金 (※)	37,900	—	—	—
有価証券および投資有価証券 その他有価証券のうち満期 があるもの	426	—	—	—
預け金	35,000	—	—	—
合計	89,162	—	—	—

(※) 受取手形及び売掛金のうち、貸倒引当金を設定し、償還予定額が見込めない25百万円は含めておりません。

(有価証券関係)

その他有価証券

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	152	58	93
	(2) 債券			
	国債・地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	152	58	93
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	1	1	△0
	(2) 債券			
	国債・地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	1	1	△0
合計		153	60	93

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額36百万円)については、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	98	56	41
	(2) 債券			
	国債・地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	98	56	41
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	3	4	△0
	(2) 債券			
	国債・地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	(3) その他	426	426	—
	小計	429	430	△0
合計		527	486	41

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額36百万円)については、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度 (平成23年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建				
	米ドル	2,254	—	10	10
合計		2,254	—	10	10

(注) 時価の算定方法

為替予約取引に係わる期末の時価は、取引金融機関から提示された価格等により算出しております。

当連結会計年度 (平成24年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建				
	米ドル	7,600	—	△205	△205
	オプション取引 売建	(△285)		△996	△711
	ドルコール 買建	26,488	—	169	△115
	ドルプット	26,488	—		
合計		—	—	△1,033	△1,033

(注) 時価の算定方法

為替予約取引およびオプション取引に係わる期末の時価は、取引金融機関から提示された価格等により算出しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度 (平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度 (平成24年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	為替予約取引 売建				
	米ドル	外貨建予定取引	1,651	—	9
合計			1,651	—	9

(注) 時価の算定方法

取引金融機関から提示された価格等により算出しております。



(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社、国内連結子会社および一部の海外連結子会社は、確定給付型の制度として、企業年金基金制度および退職一時金制度等を設けております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(1) 退職給付債務 (百万円)	△40,869	△42,602
(2) 年金資産 (百万円)	30,039	32,000
(3) 未積立退職給付債務(1)+(2) (百万円)	△10,829	△10,601
(4) 未認識数理計算上の差異 (百万円)	11,240	11,226
(5) 未認識過去勤務債務 (債務の減額) (百万円)	△2,687	△2,079
(6) 連結貸借対照表計上額純額 (3)+(4)+(5) (百万円)	△2,276	△1,454
(7) 前払年金費用 (百万円)	1,773	2,658
(8) 退職給付引当金(6)-(7) (百万円)	△4,050	△4,112

(注) 一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用の内訳

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
(1) 勤務費用 注1 (百万円)	1,465	1,481
(2) 利息費用 (百万円)	986	1,016
(3) 期待運用収益 (百万円)	△923	△923
(4) 数理計算上の差異の費用処理額 (百万円)	713	870
(5) 過去勤務債務の費用処理額 (百万円)	△608	△608
(6) 退職給付費用 (1)+(2)+(3)+(4)+(5) (百万円)	1,632	1,836

(注) 1. 企業年金基金に対する従業員拠出額を控除しております。

2. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「(1) 勤務費用」に計上しております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
2.5%	2.5%

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
2.5%~3.2%	2.5%~3.2%

(4) 過去勤務債務の額の処理年数

10年 (発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理しております。)

(5) 数理計算上の差異の処理年数

15年~20年 (各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。)

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
税務上の繰越欠損金	1,089百万円	2,642百万円
未払賞与	1,373百万円	1,228百万円
減損損失	741百万円	510百万円
退職給付引当金	926百万円	465百万円
貸倒引当金	320百万円	230百万円
未払賞与に係る社会保険料	167百万円	155百万円
一括償却資産の減価償却費損金算入限度超過額	58百万円	50百万円
その他	979百万円	789百万円
繰延税金資産小計	5,657百万円	6,073百万円
評価性引当額	△398百万円	△540百万円
繰延税金資産計	5,259百万円	5,533百万円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額	△4百万円	△3百万円
その他	△12百万円	△31百万円
繰延税金負債計	△17百万円	△35百万円
繰延税金資産の純額	5,241百万円	5,497百万円

(注) 前連結会計年度および当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
流動資産－繰延税金資産	2,881百万円	2,862百万円
固定資産－繰延税金資産	2,360百万円	2,644百万円
流動負債－その他	－百万円	1百万円
固定負債－その他	－百万円	7百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の原因となった主な項目別の内訳

前連結会計年度(平成23年3月31日)

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の5/100以下のため、注記を省略しております。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異は税金等調整前当期純損失を計上しているため、注記を省略しております。

3. 法人税等の税率の変更等による繰延税金資産および繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)および「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げおよび復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産および繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.4%から、平成24年4月1日に開始する連結会計年度から平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異等については37.8%に、平成27年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異等については35.4%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は460百万円減少し、法人税等調整額は462百万円増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、半導体パッケージの開発・製造・販売を主な事業内容としており、製品の種類や特性によって分類された事業区分に基づき、国内および海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、当該事業区分を基礎とした製品別のセグメントから構成されており、「プラスチックパッケージ」および「メタルパッケージ」の2つを報告セグメントとしております。

「プラスチックパッケージ」は、プラスチック・ラミネート・パッケージ等の製造・販売およびICの組立・販売を行っております。「メタルパッケージ」は、半導体用リードフレーム、半導体用ガラス端子等の製造・販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益または損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

セグメント間の売上高は、主に第三者間取引価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益または損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2 (注) 4	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	プラスチック パッケージ	メタル パッケージ	計				
売上高							
外部顧客への売上高	92,886	40,909	133,795	7,128	140,923	—	140,923
セグメント間の内部 売上高または振替高	—	1,318	1,318	4,004	5,323	△5,323	—
計	92,886	42,227	135,113	11,132	146,246	△5,323	140,923
セグメント利益	3,050	937	3,987	1,055	5,042	△214	4,828
その他の項目							
減価償却費	15,981	4,201	20,183	576	20,759	—	20,759
有形固定資産および 無形固定資産の増加額	14,400	3,146	17,547	695	18,243	7,833	26,077

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に連結子会社の事業によるものであります。

2. セグメント利益の調整額△214百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

4. 有形固定資産および無形固定資産の増加額の調整額7,833百万円は、主に全社共通部門における投資額であります。

5. セグメント資産は、事業セグメントに資産を配分していないため、記載しておりません。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2 (注) 4	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	プラスチック パッケージ	メタル パッケージ	計				
売上高							
外部顧客への売上高	81,056	37,939	118,996	6,829	125,825	—	125,825
セグメント間の内部 売上高または振替高	—	1,404	1,404	3,434	4,838	△4,838	—
計	81,056	39,344	120,400	10,263	130,664	△4,838	125,825
セグメント利益または 損失 (△)	△2,345	447	△1,898	626	△1,271	△486	△1,758
その他の項目							
減価償却費	15,154	3,904	19,058	601	19,660	—	19,660
有形固定資産および 無形固定資産の増加額	7,453	2,094	9,547	629	10,176	4,771	14,948

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に連結子会社の事業によるものであります。
2. セグメント利益または損失の調整額△486百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。
3. セグメント利益または損失は、連結損益計算書の経常損失と調整を行っております。
4. 有形固定資産および無形固定資産の増加額の調整額4,771百万円は、主に全社共通部門における投資額であります。
5. セグメント資産は、事業セグメントに資産を配分していないため、記載しておりません。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 製品およびサービスごとの情報

（単位：百万円）

	I C リードフレーム	I C パッケージ	気密部品	合計
外部顧客への売上高	24,463	99,448	17,012	140,923

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：百万円）

日本	マレーシア	中国	その他	合計
33,031	40,074	20,972	46,845	140,923

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国別に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：百万円）

顧客の名称	売上高	関連するセグメント名
INTEL CORPORATION	60,846	プラスチックパッケージ メタルパッケージ

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1. 製品およびサービスごとの情報

(単位：百万円)

	I Cリードフレーム	I Cパッケージ	気密部品	合計
外部顧客への売上高	23,120	88,954	13,750	125,825

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	マレーシア	コスタリカ	中国	その他	合計
30,788	32,507	19,946	15,097	27,486	125,825

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国別に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称	売上高	関連するセグメント名
INTEL CORPORATION	56,438	プラスチックパッケージ メタルパッケージ

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額および未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (百万円)	事業の 内容	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容		取引 金額 (百万円)	科目	期末 残高 (百万円)
							営業取 引以外 の取引	資金運用 の委託			
同一の 親会社を 持つ会社	富士通 キャピ タル㈱	東京都 港区	100	資金の 貸付	なし	資金運用の委託 役員の兼任1名	営業取 引以外 の取引	資金運用 の委託	180,410	預け金	40,000
								受取利息	49	—	—

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容		取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
							営業取引以外の取引	資金運用の委託			
同一の親会社を持つ会社	富士通キャピタル㈱	東京都港区	100	資金の貸付	なし	資金運用の委託 役員の兼任1名	営業取引以外の取引	資金運用の委託	161,870	預け金	35,000
								受取利息	42	—	—

(注) 取引条件ないし取引条件の決定方針等

資金運用の委託については、委託期間および市中金利等を勘案して決定しております。

2. 親会社に関する注記

富士通株式会社（東京、大阪、名古屋、ロンドン各証券取引所に上場）

（1株当たり情報）

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	1,000.80円	962.68円
1株当たり当期純利益金額または1株当たり 当期純損失金額（△）	17.80円	△16.60円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額または1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
当期純利益金額または当期純損失金額（△） (百万円)	2,404	△2,242
普通株主に帰属しない金額（百万円）	—	—
普通株式に係る当期純利益金額または当期 純損失金額（△）（百万円）	2,404	△2,242
期中平均株式数（千株）	135,090	135,090

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

## ⑤【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

該当事項はありません。

## 【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	600	600	0.6	——
1年以内に返済予定の長期借入金	—	—	——	——
1年以内に返済予定のリース債務	40	29	——	——
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	—	—	——	——
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	47	36	——	平成25年～ 平成28年
その他有利子負債	—	—	——	——
計	688	665	——	——

(注) 1. 平均利率の算定に当たりましては、期末残高の加重平均利率によっております。

なお、リース債務につきましては、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額で連結貸借対照表に計上しているため、平均利率の記載を行っておりません。

2. リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
リース債務	19	10	4	1

## 【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首および当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首および当連結会計年度末における負債および純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

## (2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	30,721	58,102	88,680	125,825
税金等調整前四半期(当期) 純損失金額(△)(百万円)	△197	△4,140	△4,394	△2,225
四半期(当期)純損失金額 (△)(百万円)	△292	△2,672	△3,522	△2,242
1株当たり四半期(当期) 純損失金額(△)(円)	△2.17	△19.78	△26.08	△16.60

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 または1株当たり四半期純損失 金額(△)(円)	△2.17	△17.62	△6.29	9.47

2 【財務諸表等】  
 (1) 【財務諸表】  
 ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	17,001	10,310
受取手形	208	207
売掛金	※1 31,815	※1 38,097
有価証券	—	290
商品及び製品	2,346	1,040
仕掛品	3,576	3,533
原材料及び貯蔵品	1,022	1,048
未収入金	※2 1,267	※2 923
預け金	40,000	35,000
繰延税金資産	2,835	2,827
その他	153	378
貸倒引当金	—	△20
流動資産合計	100,227	93,637
固定資産		
有形固定資産		
建物	※3 47,054	※3 48,177
減価償却累計額	△28,997	△30,209
建物（純額）	18,057	17,967
構築物	4,673	4,965
減価償却累計額	△3,341	△3,398
構築物（純額）	1,332	1,567
機械及び装置	169,464	174,389
減価償却累計額	△144,480	△154,216
機械及び装置（純額）	24,983	20,173
工具、器具及び備品	36,805	35,731
減価償却累計額	△34,993	△34,223
工具、器具及び備品（純額）	1,812	1,507
土地	6,232	6,261
建設仮勘定	4,698	10,610
有形固定資産合計	57,116	58,088
無形固定資産		
特許権	201	172
借地権	89	134
施設利用権	27	22
電話加入権	21	21
ソフトウェア	643	544
無形固定資産合計	982	895
投資その他の資産		
投資有価証券	190	138
関係会社株式	7,094	7,094
破産更生債権等	772	581
長期前払費用	575	508
繰延税金資産	2,219	2,502



(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
前払年金費用	1,773	2,658
その他	114	110
貸倒引当金	△792	△602
投資その他の資産合計	11,947	12,990
固定資産合計	70,047	71,974
資産合計	170,274	165,611
負債の部		
流動負債		
買掛金	18,031	20,073
短期借入金	600	600
未払金	5,922	2,609
未払法人税等	133	100
未払費用	6,237	6,479
預り金	148	316
その他	212	1,361
流動負債合計	31,285	31,540
固定負債		
退職給付引当金	4,040	4,090
その他	642	564
固定負債合計	4,683	4,654
負債合計	35,968	36,195
純資産の部		
株主資本		
資本金	24,223	24,223
資本剰余金		
資本準備金	6,055	6,055
その他資本剰余金	18,073	18,073
資本剰余金合計	24,129	24,129
利益剰余金		
その他利益剰余金		
別途積立金	77,126	77,126
繰越利益剰余金	8,863	3,996
利益剰余金合計	85,990	81,123
自己株式	△92	△92
株主資本合計	134,250	129,383
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	55	26
繰延ヘッジ損益	—	6
評価・換算差額等合計	55	32
純資産合計	134,306	129,416
負債純資産合計	170,274	165,611

## ②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
売上高	135,161	120,438
売上原価		
製品期首たな卸高	1,342	2,346
当期製品製造原価	120,661	111,799
合計	122,003	114,146
他勘定振替高	※1 36	※1 26
製品期末たな卸高	2,346	1,040
製品売上原価	119,620	113,080
売上総利益	15,540	7,358
販売費及び一般管理費	※2. ※3 11,968	※2. ※3 11,681
営業利益又は営業損失 (△)	3,572	△4,323
営業外収益		
受取利息	94	90
受取配当金	※4 218	※4 488
受取賃貸料	10	10
受取技術料	※4 475	※4 171
為替差益	—	1,331
雑収入	392	349
営業外収益合計	1,192	2,442
営業外費用		
支払利息	16	7
貸与資産減価償却費	2	2
為替差損	691	—
雑支出	67	5
営業外費用合計	779	15
経常利益又は経常損失 (△)	3,984	△1,895
特別損失		
固定資産除却損	※5 590	※5 456
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	133	—
特別損失合計	724	456
税引前当期純利益又は税引前当期純損失 (△)	3,260	△2,352
法人税、住民税及び事業税	61	68
法人税等調整額	1,351	△255
法人税等合計	1,413	△187
当期純利益又は当期純損失 (△)	1,846	△2,165

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)		当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
I 材料費	※1	43,453	35.1	41,172	36.0
II 労務費		30,432	24.5	28,022	24.5
III 経費		50,049	40.4	45,164	39.5
当期総製造費用		123,935	100.0	114,360	100.0
期首仕掛品たな卸高		3,391		3,576	
合計		127,327		117,937	
期末仕掛品たな卸高		3,576		3,533	
他勘定振替高	※2	3,089		2,603	
当期製品製造原価		120,661		111,799	

(注) ※1. 経費のうち主なものは前事業年度 減価償却費19,466百万円、外注加工費14,012百万円、当事業年度 減価償却費18,232百万円、外注加工費11,563百万円であります。

※2. 他勘定振替高の主なものは固定資産への振替高であり前事業年度2,387百万円、当事業年度1,903百万円であります。

原価計算の方法

当社の原価計算方法は予定原価に基づく工程別総合原価計算によっております。なお、期中に発生する原価差額は期末において実際原価に調整しております。

## ③【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
<b>株主資本</b>		
資本金		
当期首残高	24,223	24,223
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	24,223	24,223
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	6,055	6,055
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	6,055	6,055
その他資本剰余金		
当期首残高	18,073	18,073
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	18,073	18,073
資本剰余金合計		
当期首残高	24,129	24,129
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	24,129	24,129
利益剰余金		
その他利益剰余金		
特別償却準備金		
当期首残高	24	—
当期変動額		
特別償却準備金の取崩	△24	—
当期変動額合計	△24	—
当期末残高	—	—
別途積立金		
当期首残高	77,126	77,126
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	77,126	77,126
繰越利益剰余金		
当期首残高	9,153	8,863
当期変動額		
特別償却準備金の取崩	24	—
剰余金の配当	△2,161	△2,701
当期純利益又は当期純損失(△)	1,846	△2,165
当期変動額合計	△289	△4,866
当期末残高	8,863	3,996
利益剰余金合計		
当期首残高	86,304	85,990

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
当期変動額		
特別償却準備金の取崩	—	—
剰余金の配当	△2,161	△2,701
当期純利益又は当期純損失 (△)	1,846	△2,165
当期変動額合計	△314	△4,866
当期末残高	85,990	81,123
自己株式		
当期首残高	△92	△92
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	△92	△92
株主資本合計		
当期首残高	134,565	134,250
当期変動額		
剰余金の配当	△2,161	△2,701
当期純利益又は当期純損失 (△)	1,846	△2,165
当期変動額合計	△314	△4,866
当期末残高	134,250	129,383
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	123	55
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△67	△29
当期変動額合計	△67	△29
当期末残高	55	26
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	△18	—
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	18	6
当期変動額合計	18	6
当期末残高	—	6
評価・換算差額等合計		
当期首残高	104	55
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△48	△22
当期変動額合計	△48	△22
当期末残高	55	32
純資産合計		
当期首残高	134,669	134,306
当期変動額		
剰余金の配当	△2,161	△2,701
当期純利益又は当期純損失 (△)	1,846	△2,165
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△48	△22
当期変動額合計	△363	△4,889
当期末残高	134,306	129,416



(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計を比較勘案し、有効性を評価しております。

8. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理方法

税抜方式を採用しております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更および過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)および「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

※1. 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
売掛金	4,989百万円	4,979百万円

※2. 消費税等

未収消費税等は、流動資産の「未収入金」に含めて表示しております。

※3. 国庫補助金等の受入れによる圧縮記帳累計額は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
	358百万円	358百万円

4. 保証債務残高は次のとおりであり、下記被保証先の買入債務等に対するものであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)	
SHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD.	10百万円 (383千マレーシアリングット)	SHINKO ELECTRONICS (MALAYSIA) SDN. BHD. (407千マレーシアリングット)	10百万円

(損益計算書関係)

※1. 他勘定振替高は主に販売費及び一般管理費への振替高であり、金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
	24百万円	15百万円

※2. 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度40%、当事業年度40%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度60%、当事業年度60%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
荷造費・運賃・保管料	1,089百万円	959百万円
販売手数料	1,355百万円	1,204百万円
従業員給料手当	1,846百万円	1,842百万円
従業員賞与	793百万円	613百万円
研究開発費	4,081百万円	4,544百万円

※3. 研究開発費の総額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
	4,081百万円	4,544百万円

※4. 関係会社との間の取引高は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
受取配当金	216百万円	485百万円
受取技術料	158百万円	124百万円

※5. 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
建物	123百万円	59百万円
機械及び装置	174百万円	133百万円
工具、器具及び備品	19百万円	17百万円
その他	272百万円	245百万円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

自己株式の種類および株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数 (株)	当事業年度増加株式数 (株)	当事業年度減少株式数 (株)	当事業年度末株式数 (株)
普通株式	81,639	—	—	81,639
合計	81,639	—	—	81,639

当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

自己株式の種類および株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数 (株)	当事業年度増加株式数 (株)	当事業年度減少株式数 (株)	当事業年度末株式数 (株)
普通株式	81,639	—	—	81,639
合計	81,639	—	—	81,639

(有価証券関係)

子会社株式(当事業年度 貸借対照表計上額7,094百万円、前事業年度 貸借対照表計上額7,094百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。



## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
税務上の繰越欠損金	1,089百万円	2,642百万円
未払賞与	1,338百万円	1,200百万円
減損損失	741百万円	510百万円
退職給付引当金	915百万円	455百万円
貸倒引当金	320百万円	230百万円
未払賞与に係る社会保険料	165百万円	153百万円
一括償却資産の減価償却費損金算入限度超過額	57百万円	50百万円
その他	841百万円	652百万円
繰延税金資産小計	5,470百万円	5,895百万円
評価性引当額	△398百万円	△540百万円
繰延税金資産計	5,071百万円	5,355百万円
繰延税金負債		
他有価証券評価差額	△4百万円	△3百万円
其他	△12百万円	△21百万円
繰延税金負債計	△17百万円	△25百万円
繰延税金資産の純額	5,054百万円	5,329百万円

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.4%	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異は税引前当期純損失を計上しているため、注記を省略しております。
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.7%	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△2.6%	
評価性引当額の増減	1.3%	
其他	2.6%	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	43.4%	

## 3. 法人税等の税率の変更等による繰延税金資産および繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)および「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」

(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引下げおよび復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産および繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.4%から、平成24年4月1日に開始する事業年度から平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異等については37.8%に、平成27年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異等については35.4%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は457百万円減少し、法人税等調整額は459百万円増加しております。

## (1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	994.20円	958.00円
1株当たり当期純利益金額または1株当たり当期純損失金額(△)	13.67円	△16.03円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2. 1株当たり当期純利益金額または1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
当期純利益金額または当期純損失金額(△) (百万円)	1,846	△2,165
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益金額または当期純損失金額(△)(百万円)	1,846	△2,165
期中平均株式数(千株)	135,090	135,090

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## ④【附属明細表】

## 【有価証券明細表】

有価証券の金額が資産の総額の1/100以下であるため、財務諸表等規則第124条の規定により記載を省略しております。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 却累計額または 償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	47,054	1,468	345	48,177	30,209	1,498	17,967
構築物	4,673	440	149	4,965	3,398	195	1,567
機械及び装置	169,464	10,296	5,371	174,389	154,216	14,915	20,173
工具、器具及び備品	36,805	1,907	2,981	35,731	34,223	2,188	1,507
土地	6,232	28	—	6,261	—	—	6,261
建設仮勘定	4,698	20,012	14,101	10,610	—	—	10,610
有形固定資産計	268,929	34,155	22,948	280,136	222,048	18,798	58,088
無形固定資産							
特許権	—	—	—	230	57	28	172
借地権	—	—	—	134	—	—	134
施設利用権	—	—	—	57	34	4	22
電話加入権	—	—	—	21	—	—	21
ソフトウェア	—	—	—	1,120	576	227	544
無形固定資産計	—	—	—	1,564	668	260	895
長期前払費用	1,025	94	25	1,094	585	161	508
繰延資産	—	—	—	—	—	—	—
繰延資産計	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1. 当期増加額および当期減少額のうち主なものは次のとおりであります。

区分	資産の種類	事由	金額 (百万円)
増加	機械及び装置	若穂工場プラスチックパッケージ製造設備	3,449
		更北工場プラスチックパッケージ製造設備	1,902
		新井工場プラスチックパッケージ製造設備	1,104
	工具、器具及び備品	高丘工場メタルパッケージ用金型	749
		高丘工場メタルパッケージ用金型	962
	建設仮勘定	新井工場プラスチックパッケージ用金型	302
		高丘工場建屋	4,282
減少	機械及び装置	若穂工場プラスチックパッケージ製造設備	2,244
		若穂工場プラスチックパッケージ製造設備	1,957
		新井工場プラスチックパッケージ製造設備	1,059
	工具、器具及び備品	新井工場メタルパッケージ製造設備	654
		京ヶ瀬工場メタルパッケージ用金型	714
		高丘工場メタルパッケージ用金型	680

2. 無形固定資産の金額が資産の総額の1/100以下であるため「当期首残高」、「当期増加額」および「当期減少額」の記載を省略しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	792	20	—	190	622
役員賞与引当金	55	—	55	—	—

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、債権回収に伴う取崩しおよび外貨建債権の為替評価替によるものであります。

(2) 【主な資産および負債の内容】

① 現金及び預金

区分	金額 (百万円)
現金	0
預金	
普通預金	78
定期預金	10,232
小計	10,310
合計	10,310

② 受取手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額 (百万円)
ソニーサプライチェーンソリューション(株)	88
アオイ電子(株)	44
エムテックスマツムラ(株)	24
戸部電機(株)	13
その他	37
合計	207

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額 (百万円)
平成24年 3月	11
4月	45
5月	50
6月	57
7月	39
8月	4
合計	207

③ 売掛金

(イ)相手先別内訳

相手先	金額 (百万円)
INTEL CORPORATION	15,452
岩手東芝エレクトロニクス(株)	3,579
SHINKO ELECTRIC AMERICA, INC.	2,675
ルネサスエレクトロニクス(株)	1,978
ルネサス セミコンダクタ九州・山口(株)	1,558
その他	12,853
合計	38,097

(ロ)売掛金の発生および回収ならびに滞留状況

当期首残高 (百万円)	当期発生額 (百万円)	当期回収額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率 (%)	滞留期間 (日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} - \frac{(B)}{366}$
31,815	121,952	115,670	38,097	75.2	104.9

(注) 当期発生額には、消費税等の額を含めております。

④ 商品及び製品

区分	金額 (百万円)
製品	
プラスチックパッケージ	912
メタルパッケージ	127
合計	1,040

⑤ 仕掛品

区分	金額 (百万円)
プラスチックパッケージ	2,216
メタルパッケージ	1,316
合計	3,533

## ⑥ 原材料及び貯蔵品

区分	金額（百万円）
原材料	
I C組立材料	147
アルミベース	74
テープ材	31
銅合金	28
鉄・ニッケル合金	15
その他	157
小計	454
貯蔵品	
工場消耗品他	594
合計	1,048

## ⑦ 預け金

相手先	金額（百万円）
富士通キャピタル(株)	35,000

## ⑧ 買掛金

相手先	金額（百万円）
(株)NEOMAXマテリアル	1,765
富士通インターコネクトテクノロジーズ(株)	1,615
日立電線商事(株)	1,524
松田産業(株)	1,255
味の素ファインテクノ(株)	1,079
その他	12,833
合計	20,073

## (3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日（注）1.	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
単元株式数	100株
単元未満株式の買取り・売渡し	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買委託に係る手数料として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する。 公告掲載URL <a href="http://www.shinko.co.jp/ir/kk/">http://www.shinko.co.jp/ir/kk/</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

- (注) 1. 本基準日のほか、必要があるときは、取締役会決議によりあらかじめ公告のうえ、一定の日現在の株主名簿に記載または記録された株主をもってその権利を行使すべき株主とみなすことがあります。
2. 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利ならびに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有しておりません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 発行登録書（普通社債）およびその添付書類  
平成23年4月8日関東財務局長に提出
- (2) 有価証券報告書およびその添付書類ならびに確認書  
事業年度（第76期）（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）平成23年6月30日関東財務局長に提出
- (3) 内部統制報告書およびその添付書類  
平成23年6月30日関東財務局長に提出
- (4) 臨時報告書  
平成23年6月30日関東財務局長に提出  
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書であります。
- (5) 訂正発行登録書  
平成23年6月30日関東財務局長に提出
- (6) 四半期報告書および確認書  
（第77期第1四半期）（自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日）平成23年8月11日関東財務局長に提出
- (7) 訂正発行登録書  
平成23年8月11日関東財務局長に提出
- (8) 四半期報告書および確認書  
（第77期第2四半期）（自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日）平成23年11月11日関東財務局長に提出
- (9) 訂正発行登録書  
平成23年11月11日関東財務局長に提出
- (10) 四半期報告書および確認書  
（第77期第3四半期）（自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日）平成24年2月13日関東財務局長に提出
- (11) 訂正発行登録書  
平成24年2月13日関東財務局長に提出



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年6月28日

新光電気工業株式会社

取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小林 宏 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 伊藤 正広 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 齋田 毅 印

### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている新光電気工業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、新光電気工業株式会社及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、新光電気工業株式会社の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、新光電気工業株式会社が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成24年6月28日

新光電気工業株式会社

取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小林 宏 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 伊藤 正広 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 齋田 毅 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている新光電気工業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第77期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、新光電気工業株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。